



6月の園だより

令和5年6月1日

目黒区立中央町保育園 園長

紫陽花が鮮やかに色づき、梅雨の季節になりました。園庭には子どもたちが植えたトマトやナス、枝豆などの夏野菜の苗が、風で葉を揺らしながら生き生きと育っています。天気の良い日は汗をかくほど暑い日もある中で、子どもたちは園庭や散歩先で楽しみながら体を動かして遊んでいます。

園庭で3歳児もみじ組が、タイヤを並べた上にバスマットを乗せて橋にして渡っていました。そばで遊んでいた1歳児たけのこ組の子どもが3歳児の様子をじっと見ていましたが、そのうちに仲間入りしてバスマットの橋を渡り始めました。ゆっくり渡る1歳児の後ろに、3歳児が順番待ちをしながら見守ってあげています。橋を渡り終えた1歳児は、満足そうな表情をしながらマット入れの所まで行くとバスマットを取り、一生懸命マットを運びタイヤの上に乗せています。その様子を見ていた3歳児はタイヤからマットが落ちないように直してあげていました。そしてまた1歳児と3歳児と一緒にマットの橋を渡り楽しんでいました。保育士が関わりを仲立ちしたわけでもなく、小さい子が大きい子の遊びに興味を持ち自然に入る姿や、大きい子どもが年下の子どもを思いやり関わる姿を嬉しく感じました。

コロナが5類となり保育活動での制限も緩やかになる中、異年齢での活動が増えていきます。年下の子どもを思いやり手を差し伸べたり、年上の子どもに憧れて好奇心が高まり模倣しようとするなど、子ども同士が関わる中でお互いに育ち合えるよう、援助していきたいと思います。

今月の予定

ポニー教室（5歳児クラス）
歯科検診（全園児）
夢花保育園との交流（5歳児クラス）
耳鼻科検診（3, 4, 5歳児）
春の定期健診（1, 2, 3歳児クラス）
中旬 身体計測 避難訓練

クラス懇談会予定

3歳児クラス懇談会
2歳児クラス懇談会

※詳細は、配信中のコドモンをご覧ください。

ぽぷら組（5歳児クラス）田植えの様子



5月19日（金）にぽぷら組が田植えをしました。稲を見て「これがおこめになるの」と不思議そうに見ています。部屋でも植える練習をしていたのですが、実際に植えると稲が水に浮いてしまったり、倒れてしまったりし「なかなかうえられない」と苦労していました。やっていくうちにコツをつかんで「しをつまんで、さゆっ」と言いながら植えていました。無事、田植えを終えると「おいしいおこめになーれ」と稲に声をかけていた子どもたちです。これから水やりをしながら、稲の生長を楽しんでいきたいです。



子どもの つばやきコーナー

天気の良い日、庭に泳ぐこいのぼりを見て
3歳児「こいのぼり、あったかそう」
青いタープの上を泳ぐこいのぼりを見て
4歳児「こいのぼり うみ、およいでる」



入園・進級してから2カ月が経ちました。 幼児クラスの様子を紹介します。

もみじ組（3歳児クラス）

もみじ組になり新しい環境に緊張しながら登園していた子どもたちも、朝の仕度を自分でするようになりました。「あ、お仕度忘れてた」「早く遊びたいから後で」と言っていた子も、毎日の積み重ねの中で生活に慣れ、見通しが持てるようになると「もうお仕度終わったよ」「早くお庭行こう」と遊ぶことを楽しみにしています。園庭では子どもたちが好きな“おおかみと7匹のこやぎ”の絵本を再現し、保育士や友達と隠れたり追いかけ合ったりして楽しんでいます。今までは友達が遊ぶ姿を見ていた子も、警察官役になりおおかみを逮捕しに來たり、魔法を使っておおかみを退治したりと、自分なりのイメージや入り方で遊びに加わり、もみじ組オリジナルの遊びを一緒に楽しんでいます。「楽しそうだからやってみたい」「友達と一緒に嬉しい」という気持ちを大切に、これからも好きなことや興味を取り入れたごっこ遊びを一緒に楽しんでいきたいと思ひます。



いちよう組（4歳児クラス）

幼児クラスの中で一番小さかったクラスからひとつ大きくなり嬉しい様子の子もたちは、「いちよう組さん」と声をかけられると「はい」と元気よく返事をしてくれます。今までよりも友達と遊ぶことが楽しくなり、友達がカルタを並べ始めると「入れて」と言い、「いいよ」と入れてもらって一緒に始めています。しかし、思うように札が取れません。友達の方がたくさん札を持っていることがわかった途端「やめる」と抜けていくこともあります。回数を重ねていくうちに最後まで参加するようになりました。枚数を数えて負けたことがわかり悔しそうにだまりこむ子もいますが「もう一回」と挑む子もいます。悔しかったことよりも“友達と一緒にいい”という思いが次にまた参加したい気持ちになっているようです。友達とたくさん遊びながら勝ったり負けたりする経験を積み重ね、ドキドキワクワクしながらも最後まで楽しめるようにしていきます。



ぽぷら組（5歳児クラス）

ぽぷら組でやってみたいことを聞いてみると「竹馬に乗れるようになりたい」と言う子が多くいました。昨年のぽぷら組の姿に憧れを抱き“次は自分たちが”という思いをもっていたようです。園庭で遊ぶ際に早速竹馬を出すと、初めは手足に力が入り緊張していたり「足が痛いよ」と言ったりする子どもたちでしたが、慣れてくると少しずつ「出来そうになってきた」と嬉しそうです。くり返し練習するうちに乗れるようになると「やったー」と大喜びで、周りの友達も「すごいね」と声をかけてくれます。そして、乗れるようになった友達の姿に刺激を受け「私も」「僕も」とやってみようとする子が続いています。「こうやったら進めたよ」「たくさん練習すれば大丈夫」と頑張る友達を励ます姿もあり、友達同士のつながりを感じます。一人ひとりの力が皆の力になる関わりを今後も大切にしていきます。